

## 今月の一言

### キーワード：ようお照らしがありました

数年前のお正月のこと。故郷である石川県の寺に帰省したというので、「これで鍋でも食べまっし」とご門徒のおばあちゃんが白菜と大根を持ってきてくれました。とても大きな白菜だったものだから、私は思わず「わあ、みごとな白菜ですね！」といいました。

実はそのとき、私は心の中で、「こんな白菜、スーパーで買ったらいくらするだろう」と思ったのです。都会に住んでいる私にとって、野菜とはスーパーでお金を払って買うものだから、そのときもそういう根性が動いたわけです。

そうしたら、おばあちゃんから帰ってきたのはこういう一言でした。「はい。今年はようお照らしがありました」お照らしというのは、太陽が照ってくださったという意味です。びっくりしました。

「私が頑張って育てましたから」とか「肥やしをたくさんあげましたから」というのではないのです。太陽が照ってくださってこんな白菜になりました。雨が降って、大地がはぐくんでくださったからこんな白菜になりました。そうおっしゃるわけです。私は、自分の根性の浅はかさを思い知らされ、頭を叩かれたような気がしました。

同じ白菜を目の前にしていながら、私とおばあちゃんとは見ている世界が全然違うわけです。私が見ていたのは「これなんぼや」という世界です。それに対しておばあちゃんは、いろいろなものに支えられて、お天道さまや大地のおかげでこんな白菜になりました。という世界を見ておられる。同じものを見ていても、全然違う世界を生きているということがあるのです。

著書：この世を生きる念仏の教え

著者：一楽 真

## 同じ“ものさし”「当て方によって」 全然違う世界

2015年11月25日

さいのう とおる

**追伸：今年も残り、35日となりました。怪我や事故の無いようにお願いします。**